



川俣小学校「学校だより」

輝くひとみ

令和2年12月4日(金) 第33号

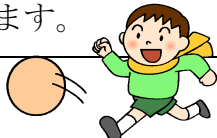
教育目標
☆すすんで学ぶ子ども
☆思いやりのある子ども
☆ねばり強い子ども
☆たくましい子ども
発行者 校長 本名 武



チャレンジする心



何か新しいことに取り組む、挑戦する、人前でやる、参加する等々は大変勇気の要ることと感じます。11月29日(日)の川俣町駅伝競走大会には、学校やスポ少等団体から多くの川俣小の子たちが参加しました。特に、今年初めてチームを組み駅伝に出場する子たちの緊張や不安等はどれほどのものかと推察できます。それでも走り始めたらずに目に耳に入ってくる自分を励まし応援してくれる人の顔や声。走り終えた子たちの表情は、何とも言えない満足げな輝きに満ちていました。がんばってチャレンジしている人には、応援してくれる人が現れること、チャレンジすることで自分の持っている能力が高められること、チャレンジする心が、さらに自分自身の可能性を広げること・・・この日、チャレンジする価値を改めて瞳輝く子どもたちから教えられました。かけ算でもわり算でも、縄とびでも跳び箱でも、昨日より今日！今日より明日！のチャレンジ魂で取り組んでいけるようにしたいと思います。



エメットの法則



タイムマネジメントの専門家であるリタ・エメット氏が説いた「エメットの法則」。言われてみれば、自分自身思い当たるところがあるように感じます。

～エメットの法則→「先延ばしした仕事は『倍の労力』が必要となる」～

第1の法則：先延ばしにするとすぐに片付けてしまうことの2倍の時間とエネルギーを要する。第2の法則：先延ばしにする原因の一つは、完璧さに対するこだわりである。

完璧にやるために、まとまった時間をとって計画を立てて・・・と思っているうちに期限が近づいてくる。2倍の時間と労力で期限ぎりぎりできとりあえず出ただけ・・・などとならないように、思い立ったら即実行する習慣づくりが大事とのこと。着手し始めてしまえば楽になるし改善する余地もできる・・・いいのができるということ。



これは仕事だけでなく、子どもの宿題や手伝いなどにも言えることだと考えます。やるべきことを後回しにしたばかりに・・・こんなことならあのときやっておくんだと反省した経験多くあります。人それぞれやり方はあるにしても、エメットの法則を教訓に、早めにやり始め、そして、まずは完璧より完了を目指す。時間を上手に使える能力は、一生の財産となると考えます。

「いまやろうと思ってたのになあ。言うんだもんなあ。」大昔の清掃剤のCMが頭を過ぎりますが、言われる前に動けるかどうか・・・これにもチャレンジ魂が必要です。